

中学生のメッセージ2024

第46回 少年の主張 三重県大会



デザイン画 最優秀賞：光をめざして 紀宝町立矢湊中学校 2年 平田 夏妃さん

📍 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
紀南地区中学生のメッセージ実行委員会
三重県・三重県青少年育成市町民会議連合会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

はじめに

中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、昭和54年の国際児童年を契機として始まり、中学生の皆さんが日常生活の中で考え、感じていることなどを広く社会に発信する場として回を重ねてまいりました。

46回目となった本年度は、県内72の中学校から9,215点にのぼる作文の応募がありました。このようにたくさんの中学生の皆さんが関心を持ち、参加くださったことを大変嬉しく思います。

これもひとえに各中学校や青少年育成市町民会議等の皆様の多大なご協力の賜物と感謝申し上げます。

今年度の三重県大会は、8月31日に御浜町で開催を予定していましたが、台風10号の影響を受け、皆様の安全を考慮して、残念ながら大会の中止を判断いたしました。

大会としての各賞の決定は、書面による主張の論旨評価で行いましたが、主張発表をはじめ、太鼓演奏や吹奏楽の実践発表、また、当日の大会運営など、この日のために準備を重ねていただいた中学生の皆さんの発信、活躍を多くの方にお届けできなかったことは、主催者として本当に心苦しく思います。改めてここまでの努力に心から敬意を申し上げます。

今回もお寄せいただいた主張の一つ一つには、中学生の皆さんそれぞれの考えや思いが詰まっていました。中学生の皆さんには、その主張を作文としてまとめる中で自分の思いと改めて向き合ったり、新たな発見をしながら考えを深めたり、さらには大会に向けて仲間とより強くつながったりといった体験を、一人ひとりが今後につながる機会にしていだけることを願っています。

本報告集は、県大会受賞者14名の主張と全国大会内閣総理大臣賞受賞者の主張を収録したものです。ご覧いただいた皆さまには、中学生の思いや考えに一層の関心を持っていただければ幸いです。

私たち大人も、皆さんの主張をととして中学生のみずみずしくも鋭い感性や、真っ直ぐで曇りのない気持ちを受け止めることができ、家庭や地域社会で子どもの育ちを支え、応援することの大切さをより強く感じる内容です。

最後になりましたが、本大会の開催に向けて実行委員会としてご尽力いただきました紀南地区青少年育成市町民会議をはじめ、多くの皆さまのご支援・ご協力に改めて厚くお礼を申し上げます。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共によりよい取組にしていきたいと思います。

引き続き、皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年1月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 中山 恵里子



目 次

はじめに

◆大会発表作品

最優秀賞

不登校になってわかったこと	松阪市立殿町中学校 3年	村田 薫音 …… 1
---------------	--------------	------------

優秀賞

伝統を守るために	四日市市立塩浜中学校 3年	坂田 愛将 …… 3
----------	---------------	------------

あいさつは人とのつながり	伊賀市立城東中学校 3年	松浦ひかり …… 5
--------------	--------------	------------

時代の変化に逆らって伝えるべきこと	明和町立明和中学校 3年	松田 菜那 …… 7
-------------------	--------------	------------

優良賞

長所と短所	紀北町立潮南中学校 3年	尾上 彩楽 …… 9
-------	--------------	------------

障がい者に私たちができること	熊野市立有馬中学校 3年	川端菜夏子 …… 11
----------------	--------------	-------------

日常の中で見つけた宝物	熊野市立木本中学校 3年	喜田 心美 …… 13
-------------	--------------	-------------

マスクを取って、笑い合おう	松阪市立殿町中学校 2年	斉田苗悠可 …… 15
---------------	--------------	-------------

悩みを理解し合える社会へ	津市立西橋内中学校 2年	坂井 智咲 …… 17
--------------	--------------	-------------

世界平和を願って	四日市市立西朝明中学校 3年	生川 瑚晴 …… 19
----------	----------------	-------------

努力は人を輝かせる	紀宝町立矢渕中学校 3年	疋嶋 美拓 …… 21
-----------	--------------	-------------

分かっている、知っているつもりでも	名張市立名張中学校 3年	日高 伶紀 …… 23
-------------------	--------------	-------------

共感すること、認め合うこと	伊賀市立崇広中学校 1年	藤崎 皇成 …… 25
---------------	--------------	-------------

命の大切さ	名張市立南中学校 1年	藤本 咲色 …… 27
-------	-------------	-------------

◆審査委員の講評 …… 29

◆大会概要

1 応募の状況 ……	35
------------	----

2 地域優秀賞受賞者一覧 ……	37
-----------------	----

3 学校奨励賞受賞校一覧 ……	39
-----------------	----

4 デザイン画受賞者一覧 ……	40
-----------------	----

◆中学生への応援メッセージ …… 41

◆協賛企業・団体紹介 …… 43

◆参考資料

1 中学生のメッセージ2024 (第46回少年の主張三重県大会) 作文募集要項 ……	45
--	----

2 令和6年度内閣総理大臣賞の紹介 (少年の主張全国大会 ～ わたしの主張2024 ～) ……	49
---	----

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。



最優秀賞 不登校になってわかったこと

松阪市立殿町中学校 3年

村田 薫音

皆さんは「学校」と聞いて何を思い浮かべますか。「楽しい」「学生に戻りたい」「青春」このようなことを思い浮かべた人が多いのではないのでしょうか。私も学校は楽しいところだと思っていました。今、私が「学校」と聞いて思い浮かべることは「怖い」です。楽しいところだと思っていたのに怖いところになったなんて聞いたら大半の人は混乱すると思います。学校が怖いと思うようになった理由は私がパニック障害になったからです。そして不登校気味になってしまいました。私の場合は精神疾患を患ったために学校が怖いと感じるようになりましたが、いじめなどの人間関係や心身の不調がきっかけで、学校が怖いと思うようになり、不登校になった学生が数多くいます。現代社会では不登校児童生徒が小学校では百人に一人、中学校では二十四人に一人、高校では七十一人に一人いるそうです。中学校における不登校児童の割合が多く、これは、クラスに一人は必ず不登校の生徒がいるような割合です。思い返してみると私の通っていた小学校でも一年生から六年生にかけて不登校の子が増えていました。また中学生になり、中学一年生、二年生ともにクラスには数人不登校の子がいました。また、「潜在的不登校」というものもあるそうでこれは、隠れ不登校とも呼ばれているそうです。意味としては、「登校しても教室に入れない、教室でじっと我慢しているだけ」つまり、学校や友人関係への不安や葛藤を抱えながら登校している状態の事です。そして、隠れ不登校の子たちは推計で三十三万人もいて、十人に一人、不登校児童生徒の三倍以上です。

先述の通り不登校や隠れ不登校になる事にはさまざまな理由があります。主な原因は自信が持てずに人とうまく関われないことでネット社会に現実逃避したり、勉強に追いつけなかったり、身体の不調であったり更には、原因が自分でもわからないと本当にさまざまです。

ではこのようなことを抱えている子たちが一般的な学校生活を送れるようになるにはどうしたらいいのでしょうか。私は一番は「周りの支え」だと思っています。私はとても環境に恵まれていると思います。辛い時は母や友達が話を聞いてくれて、困ったことがあった時先生方に相談したら親身に寄り添ってくれて、何とか学校に行けています。

また、私は学校と一番向き合っているのは「不登校の子」だと思っています。これは、私がま

★ 部活動や学校外活動

★ 好きな科目 国語・英語

★ 好きなことや好きなもの 音楽鑑賞

★ 将来の夢 メンタル心理カウンセラー

だ毎日学校に行けていた時、何も考えずに朝起きて授業を受けることができていた時より、今の朝起きられず、授業も教室で受けられず、この先の進学や就職はどうなるんだろうと毎日のように不安に襲われ、考えているからです。不登校の子全員がこんなことを考えているとは言いませんが私と同じ気持ちの子もいるのではないのでしょうか。

不登校の子にも人権があります。人権がある以上「義務教育」を受けなければいけません。そのため、全ての子供が教育を受けることのできる社会を実現させるため、私は、自分自身の経験を活かして、将来的には不登校の子達を支える活動に参加したいと考えています。

最後に伝えたいことがあります。まずは不登校ではない人へ。一つは「不登校は甘えではない」と言うこと。二つは「不登校の子を冷たい目で見て責めないで」と言うことです。自分とは違う人間を理解することは難しいことです。理解してとは言いません。ただただ見守っててください。

次に不登校、隠れ不登校の子達へ、焦らずゆっくり問題を解決していきましょう。相談できる。信頼できる人はいますか。いるならば相談してみたいです。話すだけで少しは心が楽になると思います。いないならば、チャイルドラインなどを活用してみてください。私も利用したことがあります、とても親身に話を聞いてくれました。「学校が怖いなら無理に行く必要はないよ」という言葉をかけてもらい少し心が楽になりました。学校は慣れることから始めましょう。焦らずに、一歩、一歩。





優秀賞 伝統を守るために

四日市市立塩浜中学校 3年

坂田 愛将

僕の住んでいる四日市市磯津町には、大正時代から続いている鯨船という祭りが 있습니다。踊り子やろ漕ぎと呼ばれる男児が船に乗って踊ったり、船や鯨を力強く動かしたりしながら荒波の中の鯨漁を表現します。しかし、後継者不足の問題から続けられなくなったため、僕はその祭りを見たことがありませんでした。祖父母の家に飾ってある写真や話から、祭りには多くの人が関わり、それぞれの人が色々な役割で参加するけど、男性や地元の子しか参加できないと理解していました。

一昨年、約二十年ぶりに、祭りが行われることになり、僕は、その祭りへ参加することになりました。祭りへの参加が決まったとき、祖父はとても喜んでくれました。しかし、中学生の僕は足手まといになるのか心配でした。

そんな気持ちのまま、迎えた当日、一瞬、「あれっ」と驚いたことがありました。それは、祭りの衣装を身につけた人の中に女子中高生や外国人の方がいたことでした。昔は男性しか参加できず、父も子供の頃は別の地域に住んでいたため、祖父の息子でも祭りに参加できなかったそうです。昔はそういう約束だったから、僕のように驚いた人や中にはよく思わない人もいたかもしれません。しかし、年齢、男女や人種の違いを越えて、どの人も自分の役割を全うし、活躍したことで祭りは大成功に終わりました。僕も中学生ながら自分にできることを考え演技できたので、この祭りに参加できたことを誇らしく思い、祭りを通して様々な人と気持ちが一つになる感覚が心地よく、祭りが大好きになりました。

祭りが終わった後、外国人のろ漕ぎの子や女子中高生の参加が昔の様子と違ったことについて、祖父は「鯨船の祭りは、楽しく盛り上がるだけではなく、清浄を重んじる神社の神事であるから、女人禁制とし遠ざけられていたこと、その土地を守る神様の祭りだからよその人や、磯津に関係のない人は、参加出来なかった。」と教えてくれました。鯨を取る方法を他の人に知らさないということもあったかもしれません。しかし、後継者不足や、時代の変化に伴い、女性や外国人を差別する意識が変わってきたこと、その人たちが参加できないのはおかしいと考える人が増えてきたことで、祭りを続けていくためには、昔の考え方を変えていくことが

★ 部活動や学校外活動	生徒会長
★ 好きな科目	体育
★ 好きなことや好きなもの	けん玉・スポーツ・祭りに参加すること
★ 将来の夢	トライアスロンに出場すること

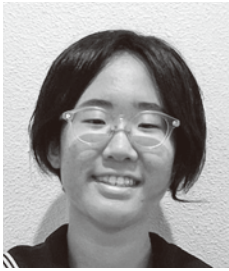
求められたのだと思いました。

僕は他の祭りはどうなのか気になり、調べていると、「国府宮のはだか祭り、令和六年の神事に初めて女性参加へ」という記事に出会いました。はだか祭りは、今から約一二五〇年前尾張大國多摩神社で厄払いをしたのが始まりです。しかし、現在のように裸になって祭りに参加する風習になったのは、江戸時代末期だそうです。では、なぜ今までずっと女性の参加が禁止されていたのか調べると、この祭りは、女性を禁止していたのではなく、裸で参加する男性が増えてきたから、それが慣例となり、事実上、女性参加が禁止になっていたことが分かりました。しかし、コロナ禍の神事で服を着た状態で参加する男性が増えたことや「男女の差別がない時代だから女性で参加を希望するのならぜひ参加して欲しい」という禰宜さんの思いで、その人たちの参加が今年から認められるようになったそうです。参加した女性は、「幼い頃から父に憧れ、羨しいと感じていたため、参加できて嬉しい」と話していました。

二つの祭りを通して、伝統のある祭りも祭りの意義はそのままに、形を変え今日まで続いていることが分かりました。一つの祭りをを行うために、多くの人が力を合わせなければいけません。そのためには、昔から続いている伝統も大切だけど、時代に合わせて従来の祭りの行い方を見直し、受け入れる側の差別意識を改め理解を深めることが必要です。そういった形を見せていくこともまた、差別意識を変えていくことにつながると思います。

僕の好きな祭りを未来につなげるために、今年も祭りに参加します。成功させる気持ちで声を掛け合い、できることをすればよいと思います。祭りはその地域に住む人の横のつながり、次の世代へという縦のつながりが生まれます。様々な価値観を認めていき、新たな伝統と多くの笑顔を作っていきたいです。





優秀賞

あいさつは人とのつながり

伊賀市立城東中学校 3年

松浦 ひかり

社会を明るくする為に、私たちができること。作文のテーマとしては、難しいなと私は思っていました。

そもそも明るい社会というのは、どんなものなのでしょう。戦争がない社会。犯罪がない社会。経済格差がない社会。「社会」と名がつくと、やっぱりまだ難しいと感じます。

「明るい社会」は、突き詰めて考えると、「私たち一人一人の生活が明るい」という前提の上で成り立つものだと考えました。だから、自分の「生活」に置き換えて考えてみます。

私は、中学校で生徒会長をしています。生徒会活動の一環として、「あいさつ運動」という取り組みが引き継がれており、私たちの代でもその活動を行っています。あいさつ運動がある日は、本当につらいけど朝少しでも早く起きて、登校しています。前にも後ろにも誰もいない通学路を、自転車で走ります。

八時ごろに、生徒会役員全員が集まります。学校には二つ門があり、私たち生徒は、登校する際にそのどちらかの門を通ります。あいさつ運動の日、生徒会役員は二手に分かれて、門の前で、登校してくる人に向かってあいさつをします。

あいさつ運動を始めて間もないころ、私はあいさつをする声も小さく、相手の顔を見て言っていませんでした。というのは、あいさつをしたって意味がないと、私が思っていたからです。だから、

「おはようございます。」

と、口に出してはいるけれど、本当の意味でのあいさつとは違いました。そんな様子であいさつをしていたからか、返ってくる声も少なかったです。このままでは良くない、と私は思いました。

そして次のあいさつ運動の日、私は思いきって声を張り上げてあいさつをしました。

「おはようございます。」

そして相手の顔を、しっかり見つめました。すると、ちょうど登校してきたその子は、こちらを見て微笑みながら、

「おはようございます。」

★ 部活動や学校外活動	卓球部・生徒会
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	ディベート・魚（深海魚）
★ 将来の夢	企業に就職

と、返してくれました。嬉しかったです。すごく嬉しくて、朝早くから寒い門の前で運動をしていたことを忘れるくらい、心があたたかくなりました。私もつられて笑うと、口からふっと白い息が出ました。良い朝だな、と感じたことを覚えています。その子は他学年で、特に関わりもありませんでした。だけど、あの朝の、あの一瞬だけ、心がつながったような気がしました。

その出来事があってから、私は、今まで以上にあいさつ運動を頑張ろうと思いました。いつもと違う静かな朝の通学路で、今日はどんないい朝になるかな、どれだけいいあいさつができるかなと考えています。今までの私は、あいさつは別にしても、しなくても変わらないと思っていました。でも今は、あいさつがないと、良い朝を迎えられないとさえ考えています。現に、いいあいさつができた日は、すごく良い一日になるからです。

このことから私は、どんな小さなことでも、生活を豊かにできると思いました。先ほど挙げたあいさつ一つで、心がすごくあたたまるし、自分の生活が少し良いものになります。あいさつは、人と人をつなぐ架け橋です。たとえ相手がよく知らない人でも、あいさつを交わすだけで、「知らない人」から、「今朝あいさつを交わした人」になり、何でもなかった朝が、特別な朝になります。私は、このような人とのつながりが、社会を明るくするために大切になってくるのではと考えています。みんながあいさつをして、みんなの生活が少しでも豊かになれるのなら、それを積み重ねていけるのなら、きっと明るい社会になると信じています。そして、私はこのことに気付けたから、あいさつ運動だけでなく、人とのつながりを大切にして、生活を豊かにしていこうと思います。

私が社会を明るくするためにできることは、今のところあいさつのみです。今日も、自分と他の誰かの生活を豊かにするために、社会を明るくしていくために、私はあいさつをします。





優秀賞

時代の変化に逆らって伝えるべきこと

明和町立明和中学校 3年

松田 菜那

今年、日本は終戦して何年目か知っていますか。七十九年、これは単なる数字ではありません。それを私に気づかせてくれたのは、とある映画作品がきっかけでした。

私は「ラーゲリより愛を込めて」という、戦争の事実に基づいて生まれた作品を見ました。私はこの作品を通して、シベリア抑留者という存在を初めて知りました。シベリア抑留は、終戦後の日本人が捕虜としてシベリアへ連行され、強制労働させられた出来事です。労働を強いられる収容所では、日本人は戦争犯罪者として扱われました。そこでは非人道的な行為や、同じ命の尊厳を見誤る現実が容赦なくありました。日本に帰れないまま収容所で命を落とした人は五万人以上にも上りました。また、生きて帰国した人でも、収容された期間は、長くて十一年間にも及びます。

シベリア抑留で繰り返されてきた残虐な蛮行。私は、人の憎しみが生み出した、想像を絶する真実に、胸が締めつけられました。同じ「人」とは到底思えないほどの行為に、私自身も傷つけられたような気がしました。

戦後七十九年、これは争いが終わり、平和が持続されている証の数字と捉えることもできます。ですが私は、それは表面上を見ただけの安易な見解であったと気がつきました。シベリア抑留や被爆者差別、そして戦争によって大切なものを失った人々の憂いの数多。戦いが終わっても、人の心は取り返せません。今もなお、ときに思いを馳せて泣いている人がいる中で、戦争は本当に七十九年前に終わったと言えるのでしょうか。

そして、私たちの普通や幸せは、当時の人々から見て、どれほど価値のあるものだったのでしょうか。

戦争は人々が生活し、愛し、育んできた全てを奪います。誰しものが不安と恐怖に直面し、自分の中にある弱さや醜さを認めざるをえませんでした。一九四五年八月以降も、シベリアで続いていた「戦争。」その状況下でも、逆境に光を見出して生きる人々はたくさんいました。そんな時代背景に、私は胸が詰まるような思いを抱きました。絶望し、下を向くことで目線より上にある美しい瞬間に気づくことさえも出来なくなってしまうからです。空の青さや壁に飾ら

★ 部活動や学校外活動	ソフトテニス部
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	ピアノを弾くこと
★ 将来の夢	色々な言語を取得してコミュニケーションをとること。

れた花の美しさなど、平時なら心和ませる景色も、戦争の暗い影は隠してしまいます。

私はとあるメディアに掲載された、いま続いている外国同士の戦争についての記事を読んだ時の感情を思い出しました。私の生きる今の時代で戦っている人々を認識して、「世界のどこかで生を願って苦しむ人がいるのに、自分は何もせず呑気にしていてもいいのだろうか。」

という思いに駆られました。テレビなどでよく、実際の映像の一部を見ることがあります。私と一緒に見ていた家族は、その悲惨な現実を目にして「可哀想に」

とよく言います。それに対して私はいつも、自分の生まれた場所や時代が違っただけで、他の誰かよりも幸運であるという不平等な格差に罪悪感を感じます。日常は脆く、不確かなものです。私たちはもっと目の前の今日を大切にすべきだと思います。

私たちは、学校の平和学習などで戦争経験者の方々からお話を聞く機会を多く貰いました。それは本や資料で読む以上に臨場感を与えられ、平和を守っていこうという決意をさせられます。同時に、このような体験の貴重さと重みを感じます。戦争経験者の平均年齢の高齢化により、当時の真実を語ってくれる人がいなくなってしまうからです。直接お話を聞くことができた私達は、事実が時代と共に風化しないよう、戦争の悲惨さを伝えていく責任があります。戦争で人々が抱いた生きることへの懸命さは、「感動した」の一言で終わらせてはいけません。

私は戦争をどこか他人事のように感じていた節がありました。しかし今は、人間の尊さや、世界は私たちの手により生きているということを、私自身が伝えようと決めました。戦争のない世界、ほんとうの平和な世界は私達の手の中にあるのだと思います。私はこれからも学び、考え、私自身に伝えられることを伝えていきます。





優良賞 長所と短所

紀北町立潮南中学校 3年

尾上 彩楽

「あなたの長所と短所はなんですか」ということをきかれ、あなたはどちらを先に思い浮かべますか。

自分の長所と短所を答えるとき、何人かの人は短所の方を多く思いついたり、すぐに思い浮かべたりするでしょう。私も短所ばかりでてきて、長所ができません。周りの友達も自分の長所が見つからない様子でした。しかし私はその友達の長所をすぐに思いつきます。周りの人から私の長所を教えてもらっても「でも本当は」と考えてしまい、胸を張って長所を言えませんでした。同じことを思う人もいるのではないのでしょうか。私自身もそうですが、みんなにもっと自分に自信を持ってほしいと思ったので、このようなテーマにしました。長所について考えている人がどのくらいいるのか、調べてみました。

「自分には長所がある」という人の比率は欧米諸国では九十パーセント前後なのに対して日本は六十パーセント程度となっています。これを見て私は、私たち日本人はもっと自分に自信をもつべきだと考えました。恥ずかしがり屋で自分の良いところを素直に認められない性格が多い日本人だと思うけど、一人一人素敵なおところがあるので、他人から褒められたことは素直に受けとり、自分の長所として捉えることが大切なのではないかと思いました。

私は自分の長所を短所に負けないようにするため、考え方を工夫しています。例えば、「計画性があるけど臨機応変な対応が苦手」という人の考えを「急なトラブルがあると少し戸惑うけどその時のために何パターンか策を考えることができる」と考えます。また私の場合だと、「計画性がなく行き当たりばったりだけど、その時に対応できる力があるからなんとかなるし」という感じで軽く考えます。そもそも長所がわからない人もいると思います。私もそうでした。そんなときは短所を長所に変えてみましょう。聞いたことがあると思います。「せっかち」を「行動力がある」、「優柔不断」を「慎重に物事を進められる」などと変えていきます。またその時、短所に目をむけすぎず、その長所をもっと自分の武器にしていけば良いと思います。他にも、身近な人に長所を聞いてみたり、人に褒められたことや成果を出したことを思い出したりしてみるのもどうでしょう。「おもしろい」とか「あなたは仕事が早い」とか。自分の長所の一部

★ 部活動や学校外活動	文化総合部・生徒会
★ 好きな科目	音楽
★ 好きなことや好きなもの	音楽鑑賞・ショッピング
★ 将来の夢	特にありません

になります。

自分の非を認めることもとても大切です。ですが、それについていつまでも責める人がいれば、強気でいましょう。自分の短所、暗いところばかりに目を向けすぎてしまうと、そこから抜け出せず、ずっとそのままです。せっかくのあなたのすばらしいところがみえなくなってしまう。自分の少しでも良いところ、素敵なおとこに目をむけてみてください。その長所を活かしていけば、まわりのことや、これからの選択などに役立つのではないかなと思っています。そうすれば、自分に自信を持ち、どんどんプラス思考になり、楽しく、明るくなると思います。自分の良いところも悪いところも知り、それを活かして素敵なお人になって、みんなが自信をもって長所を言えるようになってほしいです。私はそんな一人一人の長所を大切にしたいです。最後に「あなたの長所と短所はなんですか」





優良賞

障がい者に私たちができること

熊野市立有馬中学校 3年

川端 菜夏子

皆さんは障がい者について、どんなことを思いますか？正直何も思わない人もいるかもしれませんが、人それぞれ抱く感情はさまざまです。しかし、間違った感情を抱いてしまうと、それは差別につながることもあります。

中学二年生のとき、学校に障がい者の方がいらして、色々なお話を聞いたり、実際に全盲、車椅子を体験する機会がありました。車椅子の方や、視覚障害で白杖を持った方など、一目でわかる身体障害者は私の身近にはいません。だからこそ、この経験はとても貴重でした。実際に全盲を体験するとき、ゴーグルで視界を完全に閉ざした状態で、階段の上り下りなどをしました。友達のサポートがあっても一歩進むだけですごく不安で、階段を下るときは踏み外さないかとすごく怖かったです。車椅子を体験した時は、角を曲がる、段差の上を通るなど、とても苦戦しました。体験してみて、視覚障害がある方、車椅子の方にとっては、障害がない私たちが当たり前でできること一つ一つがとても難しいのだということに気づかされました。

その後は、事故で両足をなくし、車椅子で生活されている方がお話をしてくれました。私は最初その方に対し、「かわいそう」と、思ってしまいました。なぜなら、脚がないから、車椅子だから、何も楽しいことができないんだと思ってしまったからです。しかしその方は、とても生き生きとしていました。自分で車に乗り、ドライブをしている動画や、車椅子バスケットボールを楽しんでいる動画を見せてくれました。「なんだ、障がいがあっても、楽しい、幸せ、と感じるということは私と何も変わらないんだ。」と思い、「かわいそう」という感情を持ち無意識に差別をしてしまったことにとても反省しました。確かに、身体障害がある人は、バリアフリーと呼ばれる施設や、介助は必要ですが、障害がある人もない人もみんな同じ人間で、「楽しい」「幸せ」という感情を持つことは同じなのです。それなのに、私たちは、「障がいがあるからかわいそう。」「障がい者は何もできないから私たちが助けてあげなければならない。」そういう思い上がった感情を抱いてしまっています。その時点で、それは一種の差別につながっています。「かわいそうだから助ける」は、決して思いやりではないのです。

視覚障害者が白い杖を頭上に掲げて立ち止まる、その意味をご存知ですか？「白杖SOSシ

★ 部活動や学校外活動	バスケットボール部・生活委員会（委員長）
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	水泳
★ 将来の夢	小学校の先生

グナル」と呼ばれ、このサインを見かけたら、助けを求めているという意味です。このようなSOSサインもありますが、助けを求めにくい態度や環境で、助けを求められない場合もあります。だから、私たちが障がい者の方とともに生活がしやすいことがなになのかを考えていくことが必要です。街中にたくさん見かける点字ブロックの上は歩いたり、物を置かない。車椅子の方が通る時は道を開ける。電車、バスの優先席は空けておく。中学生の私たちにもできることです。小さなことからでも、障がい者の方が過ごしやすい環境を作ることが何より大切なのだと思います。

もし、どこかで障がいがある方と遭遇したら、私はこうしようと思います。まずその人が今、どんな状況で、どんな助けが必要か。または必要でないのか。できることは自分でしたいと思うのが人間の当たり前の感情です。だから、私が必要だと思った助けは、本当に障がい者の方にとって必要か、お節介になっていないのか、考えて行動したいです。障がい者も健常者も当たり前に同じ人間です。ただ、少し違うことは健常者よりも不自由なことがあるということだけです。たったのそれだけのことで差別が起こるのは絶対におかしなことです。障がいがある人、ない人関係なく、みんなが過ごしやすく、互いに協力し合え、共存しやすい社会になるよう、私たち若い世代が未来につなげていきたいと思っています。





優良賞

日常の中で見つけた宝物

熊野市立木本中学校 3年

喜田 心美

私は今年、中学三年生になりました。「今は」仲のいい友達と毎日とても楽しく学校生活を送っています。

皆さんは、「友達」とはどのような人だと考えていますか。私は、一緒にいると楽しく気楽で、私の学校生活を彩ってくれるとても大切な存在だと考えています。

私の中学校では「友達とはどんな人のことを言うのか」というテーマで考える授業がありました。それぞれ自分が思う友達とはどういうものかを考え、意見を出し合いました。一緒にいて楽しいと感じる人やお互いに注意しあえる人などたくさんの意見が出ました。このようなみんなの意見を聞いて、私は共通して感じたことがありました。それは、誰にとっても友達という存在は本当に特別で、かけがえのない大切な人なのだということです。もちろん私にとってもそうでした。

かつて私は、中学二年生の時に友達との関係で悩んだことがありました。自分の気持ちに正直に行動する友達に対し、なぜ私の話を聞いてくれないのか、私ばかり我慢をしなければならないのかという思いを抱きました。大切な存在であったはずの友達に違和感を覚え、付き合うのも考えるのもしんどさを感じるようになりました。また、そんな風に感じている自分にとっても悩みました。この時は大好きな絵を描くことも、好きな授業ですら楽しいと思えず、何事にも身が入りませんでした。今まで行くのが楽しみで仕方なかった学校も、行くのもとてもつらくなりました。

今振り返ると、この時の私は周りが見えず大切なものを見失い、自分勝手に独りぼっちだと思い込んでいました。いつも気にかけてくれて話を聞いてくれる友達や、つらいことがあったときに笑わせてくれる友達もいたのに、このことさえも忘れて、「味方をしてくれる人はいない」と思い勝手に一人になった気でいました。

私は、「友達」とはいつも一緒に行動して、どんな時も助け合える人のことをいうのだと思っていました。一緒に手をつないで過ごすのが友達だと思っていた私は、考えも感じ方もみんなと同じだと思っていました。

★ 部活動や学校外活動	陸上部
★ 好きな科目	国語
★ 好きなことや好きなもの	友達と話すこと・読書
★ 将来の夢	学校の先生

そんな私は、先生や親に「いろんな考えや感じ方がある」「相手は自分が思っているようなことを考えているとは限らない」などとアドバイスをもらいました。しかし、それに対して、頭ではわかっているのに心が追い付かず、受け入れられませんでした。ささいなことなのに大きくとらえて、自分を追い詰めていました。この時はとてもつらかったです。

しかし、私はこの出来事をきっかけとして、友達に対して覚える違和感について学校であった講演会や本を読みながら考えました。そして、自分自身を自分で認められておらず、追い込んでいることに気が付きました。まず、自分が大切な存在であるということを少しずつ認められるようになると、友達と自分との「違い」に対して向き合えるようになりました。違和感を覚えていることで自分を追い込んでいましたが、この違和感こそがその子と私の違いを認め合う気付きの第一歩だったのです。この気付きをきっかけに、心のどこかで感じていたもやもやも晴れました。「友達」は、ただ一緒に手をつないでいるわけでもない、学校で話すことが少なくとも、お互いの違いを認め合い、何気ない日常の中でいいな、楽しいなと思いながら一緒に笑いあえる存在だと気が付きました。

それと同時に、自分が嫌だと感じることを相手にきちんと伝えることはとても大切だと思います。自分の意見をまっすぐに伝えることは違いを認め合う第一歩だと思うからです。もし、それが原因で喧嘩をしてもきっと仲直りできると思います。私は、このことに気付いてから暗かった心に光が差しこんだように、「違和感を覚えることは普通だ。みんなそれぞれが違うからこそ仲間と過ごすことは面白い。だから毎日が楽しくなる。」という明るい考えに変わりました。これからも、今まで以上に私の周りには大好きな友達を大切にしていこうと思います。きっと明日も楽しい日になる！





優良賞

マスクを取って、笑い合おう

松阪市立殿町中学校 2年

齊田 苗悠可

今年の夏は、今までコロナのせいで開催されなかった祭りや花火が各地で開かれた。私が住む松阪市でも、松阪祇園まつりが四年ぶりに本格開催となり、二日間大勢の人が来て盛り上がった。私は祭り一日目の小若みこしに、ソフトボール部の皆と参加した。小学生の頃はよく家の近所を回る子供みこしに参加していたけど、松阪駅周辺を練り歩く本格的なみこしは初めてだし、部活の仲間と一緒に出られるのも嬉しくてわくわくした。

当日は晴れてとても暑く、想像の何倍もきつかったけど、たくさんの見物客の応援や、いつも一緒に部活をしている先輩や友達が、皆同じ法被姿でみこしを担いでいる非日常感がとても気持ち良かった。その後友達と屋台を見て回れたし、久しぶりのお祭りをめいっぱい楽しんだ一日だった。

けれども一つだけ後悔していることがある。写真や動画で見返した私の姿は、祇園の法被と半股引を着て、まっ白な足袋をはいた完璧な祭衣装。なのにマスクで顔が全然見えないのだ。もうマスク無しで外出して良くなったのに、先生や大人の人達はマスクをしていないのに、せっかくの晴れ舞台なのに、なんでマスクをしたまま出てしまったんだろう。写真を見て後悔はするけど、私は未だにマスクを外せないでいる。暑い時とかに外すこともあるけど、人がたくさんいる場所でマスクを外すのを怖い気がする。風邪でもコロナでもないから誰かにうつす心配はないし、うつされるのが嫌とかでもないんだけど。

コロナウイルスが広がり始めた頃、学校で欠席の人が出ると、ただの風邪でもコロナじゃないかと思ってしまう。自分が学校を休んだらコロナだと思われる、という恐怖もあった。でもそういう事を口に出してはいけないという空気だったから、本当の事が分からなくてずっと不安だった。マスクはそういう不安を和らげてくれる存在だったと思う。

コロナがまだ無い時は、風邪をひいていてもマスクなんてしなかったから、給食を食べる時以外ずっとマスクをしているなんて異常な光景だったはずなのに、コロナが始まったら逆にマスクをしていない人が異常者になってしまった。テレビでも、マスクをせずに電車に乗っているおじさんを非難する動画とか、マスクをしていない人がお店から追い出された話とかをよく

★ 部活動や学校外活動 ソフトボール部

★ 好きな科目 音楽

★ 好きなことや好きなもの ペンギン・音楽を聴くこと・絵を描くこと

★ 将来の夢 保育士

見かけた。コロナだと自分で分かっているわざと飲食店に来店して、お店の人を感染させた人がその後コロナで亡くなるという、ショッキングなニュースもあったから、マスクをしていないと怖がられる、マスクをしていない人は怖い、という感覚がしみついてしまったんだと思う。朝学校へ行く時マスクを忘れたら、遅刻をしても家に取りに帰ったし、マスク無しでコンビニに入ってしまったらものすごくあせったりした。

テレビで見たニュースで一番怖かったのは、ダイヤモンドプリンセス号だった。まだコロナが何なのかよく分からなくて、とにかく感染を広めないように、船の乗客はずっと閉じ込められていた。早く病院に行けたら助かったかもしれないのに、具合が悪いまま船にいた人達はどんなに辛くて怖かっただろうと思う。でももし私がその港の近くに住んでいたら、すぐに病院に行かせてあげたいとは思えなかったかもしれない。

差別や迫害は、よく分からないものを恐れる心から生まれるんだと思う。怖いから、人の痛みや悲しみが見えなくなるんだろう。私が今でもマスクを外したくないのは、コロナになったら差別されると思っていた頃の気持ちが忘れられないからだと思う。今はそんなこと思わないけど、完全にマスク無しで過ごすのはまだ無理だ。でも、祇園まつりでみこしを担いだ時はマスクを外せば良かったな。

最近、少しずつだけど部活でマスクを外す事が増えた。私が外すと周りの友達も外そうかなってなったりもする。もうそろそろ、マスク無しで思いきり笑い合いたいな。





優良賞

悩みを理解し合える社会へ

津市立西橋内中学校 2年

坂井 智咲

「ヤングケアラー」あなたは、この言葉を知っていますか。私が「ヤングケアラー」について初めて知ったのは、中学一年生の夏休みです。たまたま図書館で「ヤングケアラー」を題材にした小説を読んだことがきっかけです。

「ヤングケアラー」とは、本来なら大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている十八才未満の子どものことです。「お手伝い」とは違い、「ヤングケアラー」は、自分以外に家事や介護をする人がおらず、やらざるを得ない状況にいる子どものことです。それによって学業や人間関係に影響が出たり、進学や就職を断念する子どもも多くいるそうです。近年、この「ヤングケアラー」が増え、問題となっています。

この説明を聞いても、「ヤングケアラー」を身近な問題だと感じる人は少ないのではないのでしょうか。実際、私が、この言葉を知った時も、最初はどこか他人事に捉えてしまっていました。ですが、厚生労働省が行ったアンケートでは、私と同じ中学二年生の五.七パーセントの人が、「世話をしている家族が『いる』」と回答しました。これは、中学二年生の約十七人に一人が「ヤングケアラー」である可能性があるということです。私のクラスは、全員で三十九人なので、自分のクラスメイトの内、二人は「ヤングケアラー」なのかもしれないと考えると、とても身近な問題に感じました。

ですが、もし、自分の周りに「ヤングケアラー」がいたとしても気付けるのだろうか、そして、気付けたとしても支えになることはできるのか、今の私には正直自信がないし、不安です。私は今、家族に病気や障がいを抱える人はいないし、過去にいたこともないです。「家事」ではなく「家事の手伝い」しかしたことがありません。だから、自分の時間を犠牲にして家のことをしなければいけない大変さを事細かに理解することはできません。きっと、私が想像するよりも、もっともっと何倍も体力的にも精神的にも疲れることだと思います。

「ヤングケアラー」が増えている今、中学生の私に何ができるのかを考えました。まずは、自分の周りの友達にも家のことで問題を抱え、困っている人がいるかもしれないという認識を持って接することだと思います。それだけでなく、この問題を周りの友達にも知ってもらふこ

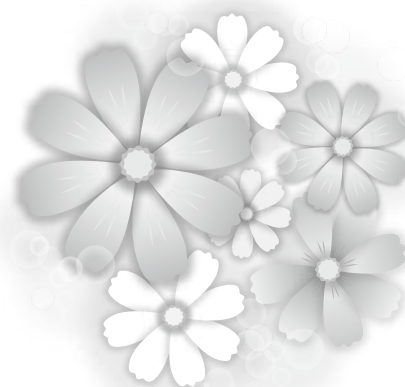
★ 部活動や学校外活動	ソフトテニス部
★ 好きな科目	国語
★ 好きなことや好きなもの	ドラマ・映画を観ること
★ 将来の夢	医療関係の仕事

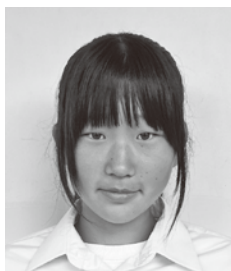
とです。それが、今の私に実践できることです。

そして、「ヤングケアラー」が生きやすく、「子ども」として過ごせる社会になるためには、どうすれば良いのでしょうか。それは、悩みを打ち明けられるようになることが一番大事だと私は思います。「ヤングケアラー」の人は友達に家庭内の話をすると「重い」と言われるのが怖くて、周りの人に話しにくいのだそうです。悩みを周りに打ち明けづらいことが、この問題を深刻化させている大きな要因だとも感じます。だから、今、少しずつ「ヤングケアラー」という言葉が知られるようになり、公的な支援や援助が増えているのは、すごく大きな前進だと思います。

そして、悩みを打ち明けられる社会になるためには、一人一人があたたかい心を持ち、それを広げていかなければいけません。「ヤングケアラー」について知ったり、困っている人の気持ちを理解しようとするのもその一つだと思います。それだけでなく、友達が悩んでいることに気付いたり、それに寄りそったりできる思いやりの心が必要です。

これは、「ヤングケアラー」に限ったことではありません。様々な問題が混在する今、人々の辛さや弱さを理解し合える社会になってほしいと強く感じます。誰しものが、悩みや弱さを抱えて生きているのだと、みんなが思えたらいいと思います。一人一人が持つ、あたたかい心、思いやりの心が広がっていけば、社会は少しずつ明るくなっていきます。これが今の私からのメッセージです。





優良賞 世界平和を願って

四日市市立西朝明中学校 3年

生川 瑚晴

私は去年の夏休みに、鹿児島県の知覧特攻平和会館に行きました。初めは、つまらないだろうなあと気がすすまなかったけれど、気づかないうちに展示物を見るのに必死になっていました。

最初に実際に使われていたボロボロになった戦闘機を見ました。教科書などで綺麗な姿の戦闘機は見た事があったけど、本当に使われていた戦闘機を初めて見て、教科書とは違う感情がありました。今まではあまり現実味を感じていなかったけど、実際に見てみたら教科書の中だけの話ではなく、本当にあったのだと思いました。

特攻とは爆弾を付けた飛行機にパイロットが乗ったまま、敵の船に体当たり攻撃のことです。特攻作戦では、パイロットは必ず死ぬことになりました。特攻隊員の多くが、今の高校生や大学生と同じ年ごろの人たちでした。私の兄は今、高校三年生なので、兄と同じ年ごろの人たちがそういう風に特攻隊員に選ばれ命を落としてしまうと考えると、もし自分の兄がその立場だったら想像することができないほどいやだと思いました。

特攻隊に選ばれた人達の両親、恋人への手紙や遺書を見ました。両親への手紙には、「お母様は笑って生きてください。私は笑顔で散ります。永久にさようなら。」などの言葉が多く残されており、恋人への手紙には、「会いたい、話したい。でも自分にはもう時間がありません。しかし、この世の中には沢山の男はおります。だから幸せになってください。」などの言葉が残されていました。私はその言葉のひとつひとつに誇りに思う気持ちや、さみしさ、怖さ、全てが込められているように思えて、今までは深く考えた事がなかったけど初めて、私がこの立場だったらなど色々な立場になり切って考えることができました。その時に大切な人の顔が思い浮かんで、その辛さを今までより深く感じることができました。

特攻隊に選ばれるまでの道のりを聞きました。自分が特攻隊に選ばれたら、死んでしまうということを分かっているのに、選ばれた時のために戦闘機の乗り方を学んだり、敵にバレてしまわないように三角兵舎と呼ばれるせまい場所で寝泊まりをしたりしていたという話を聞いたり、写真を見たりして、自分の見えない状況なのに笑顔で過ごしている写真しかなくて、

★ 部活動や学校外活動	野球部・生徒会・女子野球
★ 好きな科目	体育
★ 好きなことや好きなもの	ダンスをすること・食べること
★ 将来の夢	優しくて、強い大人になること

自分だったら、そんな状況で普通には過ごせないと思いました。その中で特攻隊に選ばれ、出発した人の布団をその後に見に行くと、枕がびちょびちょになるぐらい声を押し消しながら泣いていた跡があったという話を聞いて、一人でこわい気持ちと戦っていたのか、家族、恋人との思い出を振り返っていたのか、その人の気持ちをたくさん自分なりに考えることもできて、なんだか今までとは違う苦しい気持ちになりました。

今回の経験で一番感じたのは、人には生きる権利があって、その生きる権利を奪うことは決してあってはならないことなのに、戦争はそのたくさんの人の生きる権利を奪っています。今起きている、ロシアとウクライナの戦争でたくさんの人の命と生きる権利が奪われています。だから、戦争ではない解決策がきっとあるはずです。生きる権利と命が守られる世界になりますように。この思いを決して忘れず一人でも多くの人に伝えていきたいと思います。





優良賞 努力は人を輝かせる

紀宝町立矢渕中学校 3年

疋嶋 美拓

「自分のことは好きですか」学校のアンケートでよくあるこの質問。私は、毎回、「普通」と答える。自分が好きだという感情を感じたことがなく、どのような感情なのかを理解していないからだと思う。私は、自信を持って自分のことを好きだと言える人のことを心の底から尊敬するし、私もそうなりたいと考えている。けれど、毎日を過ごすたびに自分の悪いところを見つけ、どんどん自分のことを嫌いになっていく自分がある。人の良いところはすぐに見つけることができるのに、自分のことになるとなかなか見つからない。そんな時、自分のことを少し好きになるきっかけとなった出来事があった。

それは部活中のことだった。私はバスケットボールを始めて一年とちょっと。先輩から誘ってもらい、何気なくバスケットボール部に入った。周りの子はバスケットボールを小学生からしている子が多く、みんなに置いていかれるのを日々感じていた。バスケットボールのルール、プレー、オフィシャル等覚えることが多すぎて頭がこんがらかることが多かった。三年生との最後の試合となる中体連。結果は敗北だった。県大会に行くというみんなの夢を叶えることはできなかった。とてもくやしかった。もっと上手になって、たくさん点を決めることができていたらと、私は、自分自身の不甲斐なさに失望した。そこで私は決意した。「必ず、次は県大会に行って、三年生に恩返しするんだ」と。その日から私は、今まで以上に毎日バスケットボールに打ち込んだ。部活が終わって、家に帰ってからも、外が暗くなるまで、お父さん、妹と一緒に自主練習をし続けた。そうすると、次第にできるプレーが増えてきた。しかし、途中でバスケットボールをするのが楽しくなくなってしまい、自主練習をやめてしまった時もあった。そんな時は、あの日のことを思い出し、自分の弱さに向き合って、自分を立て直すことができた。そして、待ちに待った試合の日。一勝一敗。県大会に行けるのか決まる大事な一戦。試合は、今までにないくらいの接戦だった。残り十九秒でキャプテンがフリースローを2本とも決めて同点。会場が緊張した空気であふれていた。残り五秒。絶対に勝つ。私は全速力で走った。ボールがとんできた。私はゴール下でパスを受け取った。すぐにゴールに向かってボールを放す。その瞬間、今までに聞いたことがない大きな歓声が、会場に響いた。得点を見ると、二点差

★ 部活動や学校外活動	バスケットボール部・熊南ジュニアチーム (バスケットボール)
★ 好きな科目	英語
★ 好きなことや好きなもの	アニメ鑑賞・バスケットボール
★ 将来の夢	看護師

で逆転していた。必死すぎてシュートを入れたときの感覚は全く覚えてはいなかった。そのまま残り三秒ディフェンスで守り切り、県大会出場を手にすることができた。皆で泣いて喜び、後輩の目にも、涙がいくつも浮かんでいた。私はそのとき思った。今まで練習してきたよかったと。つらいことや苦しいこともたくさんあったけれど、それを乗り越えてこれたことは、自分に自信を持つことができ、成長することができたと感じられた出来事だった。このことをきっかけに、私は、自分自身の強みと弱みについて理解し、自分のことをよく知ることができた。そして、自分としっかり向き合って自分自身を理解しようとすることはとても大切なことで、日々過ごしていく中で必要なことだということを学ぶことができた。

これからも私は、色々なことに挑戦し、努力していこうと考えている。また、自分自身としっかり向き合い、理解して自分の事をもっと好きになっていきたい。





優良賞

分かっている、知っているつもりでも

名張市立名張中学校 3年

日高 伶紀

みなさんは、自分が住んでいる地域のことについて知っていますか。どんな場所があるのか、人口はどれくらいか、魅力は何かなどです。そのようなことは分かっていると思う人も多いと思います。しかし、その地に住んでいるからこそ分からないことや、知っているつもりになっていることもあります。私もほぼ分かっているつもりでした。しかし思っているより知らない、分かっていないこともあるのです。

私は、友達とよく遊ぶのですが、そのときはゲームセンターやカラオケに行きます。しかし、いつも同じような場所へ行くので、時には気分ではない、飽きてしまっていることがあります。そのようなとき友達は「名張って遊ぶ場所、少ない?」と言っています。そのとき、私は心の中で、「たしかに少なめとは思うけど、まだあるほうやろ。」と思っています。たしかにショッピングモールや映画館はなく、そこへ行く為には、電車などを使わなければいけません。それでも、私達は名張の中心辺りに住んでいるので、名張の中では店もたくさんあり、駅もあり、人や車も多く、栄えている方だと思います。また、時間とお金はかかりますが、大阪や名古屋へは、電車一本で行けるので、不便ではなく、良い場所だと思います。私の友達は、名張と都会を比べてしまっているのも、あのような発言をしたのではないかと思います。しかし、他の場所と名張を比べると、感じ方が違うようになると思いました。私は、住んでいるからこそ、分からないことがあると感じました。そんな私も、前までは、友達と同じようなことを思っていました。祖母の住んでいる地域と比較をしてみたら見方が変化しました。

そんな祖母の家は尾鷲市にあります。尾鷲は、名張と比べると店が少ないということや過疎化が進んでいるということがあります。そんな尾鷲ですが魅力もあります。まず、過ごしやすい気候です。尾鷲は、本州の中で南の方にあります。それによって、一年を通して比較的、温暖です。そして、私が一番の魅力だと思うのは、海です。名張にはない海です。まず海という存在が良いなと思います。また、海があることによって、気持ちが良い風を感じられたり、おいしく新鮮な刺身を食べられたりします。私はこのようなことが尾鷲の魅力だと思います。

一方で前の私がもし名張の魅力は何かと聞かれたら、すぐには答えられなかったと思います。

★ 部活動や学校外活動	オーケストラ部・生徒会
★ 好きな科目	音楽
★ 好きなことや好きなもの	スポーツ観戦・アニメを観ること
★ 将来の夢	人の幸せをサポートできるような仕事

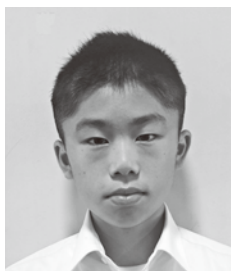
「自然が豊富」ということや、有名な「赤目四十八滝」があるということは思いついていました。しかし、それらについて、しっかり語れるわけではありません。そんな私だったのですが、今年のゴールデンウィークに名張の中で初めて通った場所があり、そこがとても良いなと思いました。それは津市の美杉町へ入る前の滝ノ原や長瀬という地域です。そこは山の近くにあり、店もあまりなく車も人もそこまでの場所ではないです。畑や田んぼがたくさんある場所です。少し不便な場所ではあると思います。しかし、空と山と昔ながらの家と畑と田んぼの組み合わせはとても美しく、これが一つの自然の美しさであると感じました。その風景は名張の魅力であると思いました。

私はそのような地域があることを少しは知っていましたが実際に行ったことはありませんでした。これによって実際に行ったり見たりすることはとても大切だと思いました。

私はこのような経験から、知らないこと、分かっていないことがたくさんあると気づきました。このことは自分が住んでいる場所の良さだけでなく、違う場所の良さ、また不便なこと、大変なことにも当てはまると思います。今回は地域のことでしたが、その他の様々なことについても知らないことがあるに当てはまると思います。どんなことでも、知る為には、見方を変える、知っていると思いきすぎない、実際に見たり、体験したりすることなどが大切だと思っています。

私は名張で三重で日本で知らないことがたくさんあると思います。そのことを知れるようにしていきたいと思います。みなさんも様々なところに目を向けることを意識するようにしてください。





優良賞

共感すること、認め合うこと

伊賀市立崇広中学校 1年

藤崎 皇成

衆議院東京十五区の補欠選挙のニュース、これまで私が見てきた選挙の様子と全く違う映像だった。大音量で他の候補者の演説を妨害したりクラクションを鳴らして他の選挙カーへ迫っていったりする様子。これは本当に大人がしている事なのか。国民の代表として日本の社会をよりよくしたいと思っている人たちのする事なのか。私は衝撃を受けたと同時に、どうして警察はこの人たちを捕まえないのか、と不思議に思った。

その政党の行為は憲法で尊重されている表現の自由だと主張していることを知った。日本国憲法では「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由」が保障されている一方で「自由及び権利を濫用してはならない」とある。小学校で習った日本国憲法の基本的人権の尊重の中にある「自由権」がこの選挙の妨害と関係しているなんて考えもしなかった。

私は先月ディズニーへ行った。一緒に行った祖父がパークの中でカードケースを落とした。気づかず帰ってきてしまい問い合わせたところ、数日で手元に送られてきたそうだ。パーク内での落とし物の八割以上が見つかるそうだ。落とし物を見つけたら、拾って届けてくれる人がそれだけたくさんいるということなのだろう。パレードやショーの時も、始まる直前になると後ろの人に気遣って自然に帽子や日傘をたたんでくれる人が多い。前の方に並んでいる権利を主張する人などいない。これは、ルールを口うるさく言われなくてもみんながあたり前と思えることを自然とできているからなのだろう。だから私はディズニーランドが好きだし、また行きたくなる場所だ。

私は小学校からサッカーをしているが、試合中、相手の選手がけがをして倒れていたらボールを外へ蹴り出して試合を中断させる。相手選手をたおしてしまった時は、手を差し伸べて、「ごめんね。」と言う。負けられない戦いの中でも相手に敬意を払う事は勝敗よりも大切であると思う。時には、行き過ぎた行為をする選手もいる。そのような場合は審判がイエローカードを出し、反省する。そして、気持ちを切り替えて試合を再開する。「サッカーとはそういうものだ。」そういう空気がサッカーにはあるように思う。

「犯罪」言葉で言うとても怖い言葉に思うが、犯罪を起こそうとして起こしている人ばかり

★ 部活動や学校外活動	サッカー部
★ 好きな科目	数学
★ 好きなことや好きなもの	サッカー・お城
★ 将来の夢	スポーツドクター

ではないのかもしれない。選挙で行き過ぎた行為をしているように見えた政党も、何か目的があったのかもしれない。選挙の結果、千百十票を獲得したという事実に私は驚いたが、政党を立ち上げ、協力している人がいて票も入るということは、共感できる思いがあるのだと思う。法律を作る立場である国会議員でも法を犯して裁かれることはある。ディズニーの映画ではその日のパンを買えない少年がパンを盗むが、現実世界ではお金や生活に余裕がない人が犯罪をしてしまうことばかりではないように感じる。国会の議論の場や政治討論のテレビ番組はまるで大人が喧嘩をしているように私には見える。私にはどこからが犯罪でどこまでが自由なのかはよく分からない。

ディズニーには楽しもうという目的があって集まってきている人ばかりだから、長時間並んでも文句は言わないし、全体にゆずり合う。暑くても寒くてもみんな笑顔だ。列に割り込む人などいない。サッカーでは正々堂々と戦って勝ちたいという思いがあるからフェアプレーにこだわる。そうでないと勝っても嬉しくないし、楽しくないから。行き過ぎたときは審判がいて公平に裁く。カードが出た後は何事もなかったかのように選手は試合を再開する。

世界中がディズニーのようにみんな楽しく過ごせる場所だったらとてもうれしいし、サッカーのように審判が裁いて、何事もなかったかのように試合を再開できるような世界だったらいいなと私は思う。そのためには、一人ひとりが楽しみや目標をもって過ごせるように、友達とたくさん話すことが必要だと私は思う。夢や希望を発信し、お互いの意見に共感し、認め合うことで、たくさんの人が夢や希望をもつようになり、犯罪のない自由な社会になったらいいなと私は思う。





優良賞 命の大切さ

名張市立南中学校 1年

藤本 咲色

昨年の夏、大好きなお姉ちゃんのお腹の中に赤ちゃんがやってきました。そしてこの春、女の子の赤ちゃんが産まれました。

私は、お姉ちゃんのお腹が少しずつ大きくなっていくのを見ていて、すごいなあと思いました。月日が経つと、お腹が大きくなり、赤ちゃんも大きくなります。一度、お姉ちゃんと一緒に病院へ行きました。エコーを見せてもらうことができて、赤ちゃんの心拍や動きを見ることができました。動いている赤ちゃんを見て、小さな心臓がドクドクと動くのを見た瞬間、一人の身体の中に二つの心臓があることに感動しました。とても大切なものだと思います。

今、世界のあちこちで戦争や、子どもたちへの虐待がニュースで流れることが多く思います。戦争では、産まれてくることができなかった命があると知りました。お腹の中で大切に育てられてきた命、大切に育てていたお母さんや、まわりの人たちの命も簡単に奪ってしまう戦争の怖さ、命の重さを考えさせられます。なぜ戦争が起こるのか、なぜ人が人を殺さなければいけないのか、まだ子どもの私には理解できません。

また、虐待も日本で多くあると知りました。お母さんのお腹の中で育てられた大切な命を体罰などで命を落とすこと、私には考えられなかったことです。体罰やネグレクトなど、いろいろな言い方をされている虐待。どの言葉にしても、大切な命を、一人の命を奪うことは決していけないことだと思います。ニュースなどで流れると、画面を観てしまいます。

私は、お母さんやお父さんから大切に育ててもらっています。だから、テレビや新聞などで観ると、お母さんとも話しをします。お母さんは、戦争のことや虐待のことも話しをしてくれます。「大切な命だから、奪うことは絶対にダメなことだよ」「自分の命も、他の人の命も重さは同じ。お姉ちゃんの赤ちゃんのように大切にお腹の中で育てられた命なんだから、奪うことはしてはいけない。」と話してくれました。

私はその話しを聞いて本当に命は大切なのだと思いました。

お姉ちゃんの赤ちゃんがこの春に産まれて、初めて抱っこすることができました。初めて抱っこした時、「小さい」「かわいい」「新しい命が産まれた」と思いました。お母さんから、「赤ちゃん

★ 部活動や学校外活動	ソフトテニス部
★ 好きな科目	保健体育・音楽
★ 好きなことや好きなもの	友達と外で遊ぶこと
★ 将来の夢	ネイリスト

んが産まれる時は、赤ちゃんもお母さんも命をかけて産むんだよ。」と聞いた時、命をかけてこの世界にでてくとも知りました。お姉ちゃんが命をかけて産んだこと、赤ちゃんが命をかけて産まれてきたこと、初めて抱っこした時は、そんなことを思っていなかった私だったので、お母さんから聞いた後、お姉ちゃんの赤ちゃんをもう一度抱いて思うこと、感じるものが違いました。重さ、愛しさ、決して軽い気持ちで、あつかうものではないことを、もう一度学ぶ機会となりました。

私がみんなに伝えたいことは、自分の命も誰の命もみんな同じで「大切なもの」だということです。みんなも同じようにお母さんから産まれて大切に育てられてきていると思います。命の重さを軽くみると、人を簡単に傷つけることがあります。言葉や態度でも、傷つき人の心を悩ませ、自ら命を捨てる人もでてきていることもあります。大切な命を捨てなくてはいけなくなるくらい悩ます発言や態度をとっていないか、友達でも友達でなくても考えて行動していきたいと思います。誰もが大切な命を持っていること、本当に簡単に傷つけやすい言葉や態度を自分が思っている以上に相手が傷つくことも分かる必要があるから、みんなを大切にしていこうことを、一緒にみんなで行っていききたいと思います。



審査委員の講評 (順不同・敬称略)

【審査委員長】垣本 美和 (公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 理事)



中学生のメッセージ2024 (第46回少年の主張三重県大会) は台風10号の接近により開催が中止になりました。

ファイナリストのみなさん、そして、発表を楽しみにして、応援して下さっていた多くの方々は本当に残念な思いをされていることと思います。

今回は、作文のみでの審査になりましたが、みなさんの作文はそれぞれに力強さや繊細さ、優しさに溢れた素晴らしいものでした。

みなさんのパフォーマンスに触れられない分、私は何度も何度も読み込むことでみなさんの想いを受け取りたいと思いました。審査員全員が同じ思いだったと思います。一回目より二回目、二回目より三回目と読めば読むほど新たな気づきがあり、みなさんの思いが伝わってきました。

そして、9名の審査員で、14名のファイナリストの中から、最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞10名をそれぞれ選ばせていただきました。

その中で、最優秀賞となった村田薫音さんの「不登校になってわかったこと」という作文は不登校になった自身の体験から同じように不登校で悩んだり苦しんだりしている人の気持ちに寄り添い、思いを代弁するメッセージを伝えてくれました。不登校になって、自分自身が感じた辛さとその辛さを伝えることができない子どもたちの声を代わりに伝えてくれた勇気、そして不登校で苦しんでいる子どもたちに寄り添い、自分の経験を踏まえて優しいエールを送ってくれたことが高く評価されました。

優秀賞「あいさつは人とのつながり」の松浦ひかりさんの作文からは中学生の自分ができる「あいさつ」から明るい社会を実現しようとする力強さを感じました。

同じく優秀賞「伝統を守るために」の坂田愛将さんは伝統あるお祭りの意味をきちんと調べた上で多様性を受け入れ、大好きなお祭りを次世代に繋げていきたいという気持ちを伝えてくれました。しっかりと考えをまとめ、わかりやすく主張している点がとても良かったです。

同じく優秀賞「時代の変化に逆らって伝えるべきこと」の松田菜那さんは戦争で苦しんだ人、苦しんでいる人のことを繊細な感性と豊かな想像力で理解しようとしていて、平和への思いを単なる願いに終わらせない強さを感じられました。優しさと強さの両方が伝わるメッセージに評価が集まりました。

優良賞の10名の方々もそれぞれに豊かな感性と鋭い視点、そして中学生らしい素直な気持ちで私たちの心に訴えかけてくれました。

このような感動と気づきに溢れた「中学生のメッセージ」にこれからもたくさんの中学生在が参加し、その思いがたくさんの人に届くことを心から願っています。

今回、大会での発表は叶いませんでしたが、ファイナリストのみなさんが努力したことは今後の人生に必ず生きてきます。

そして運営スタッフとして準備してくれていたみなさん、太鼓や吹奏楽の演奏を披露してくれるはずだったみなさんも、その努力と経験は必ず今後の人生の糧となるはずです。

みなさんの成長と今後の活躍を楽しみにしております。

最後に本大会のため、ご尽力くださった皆様に心から感謝申し上げます。

Dr. Shiro Kikuchi is a Professor of the Department of Chemistry, Faculty of Science, Yamaguchi University, Yamaguchi, Japan. He received his B.S. and M.S. degrees from Yamaguchi University and his Ph.D. from the University of Tokyo. He worked as a research fellow at the University of Tokyo and as an assistant professor at Yamaguchi University. He has been a professor at Yamaguchi University since 1998. His research interests are in the synthesis of natural products and the development of new synthetic methods.

Dr. Y. Nakamura

ち、それを解決する
んに期待しています。

結びに、財団の皆様をはじめ、大会を目指して準備を進めていただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

Shiro Kashiwagi

今回は台風の影響で、壇上で声に出して発表する機会が無かったのが残念ではありましたが、作文を読ませてもらった範囲で思う事を何点か述べてさせていただきます。

今回応募していただいた皆さんには、それぞれの主張を忘れずに、これからも信じた道を進んで頂きたいと思います。

最後に、今回の少年の主張に応募して頂いた全ての中学生と、運営に携わられた皆さんに心より感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a white collared shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a light-colored wall with some papers or notices pinned to it.

最後に、大会に向けて準備・運営に携わっていただきましたすべての方々、参加・協力された中学生のみなさんに心から感謝申し上げます。

【審査委員】木原 剛弘（三重県PTA連合会 会長）



「みなさんの声を、想いを、御浜町中央公民館で直接聴きたかった！」
これが審査をさせていただいた率直な感想です。台風10号の接近に
ともない、今年度の大会は書面での審査のみとなりました。直接にみな
さんのメッセージをお聞きする機会が無くなったことは本当に残念でな
りません。そう思うほどに、みなさんのメッセージはどれも素晴らしかつ
たのです。

どのメッセージも、中学生のみなさんの感性豊かな「気づき」に関心
させられました。みなさんが、社会の出来事から、あるいは自らの体験から、考え、時には悩み
ながらも紡がれた言葉は、それぞれの確かな個性を感じ、それぞれに共感しました。

今回、審査員として14名の中学生のメッセージに触れる機会をいただきました。この貴重な
経験に深く感謝を申し上げるとともに、この大会に係わったすべてのみなさんに心から敬意を表
します。

.....

【審査委員】高木 達成（三重県私学協会〈暁中学校・高等学校 校長〉）



14名の中学生の皆さん、メッセージをありがとうございました。いず
れも素晴らしいものばかりでした。

作品に共通していることは、自らの体験や社会事象を自分事として捉
え、気づきや意見、提案としてわかりやすく表現できていることです。
一人一人のしっかりとした視点と判断には、感動させていただくだけ
ではなく、多くの学びを得ることができました。

これからの社会を担う若者が、素敵な人として育ってくれていること
は、大変嬉しく、心強く思いました。

結びに、大会関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、作文に取り組んでくれたすべての中学
生の皆様が今後も各方面で活躍されることを心より期待しております。

Mr. Tetsuya Kato

たとえ大人であってもそれは簡単なことではありません。なかなか難しいものです。「思うがままに書けばいい」と考えれば考えるほど、ペンが止まってしまうこともあります。県内各地の審査を経てここへ選出された14人のみなさんもまた、そんな経験をされたのではないかと想像します。どのような表現をすればこの思いが伝わるのか、読み手に何か

.....

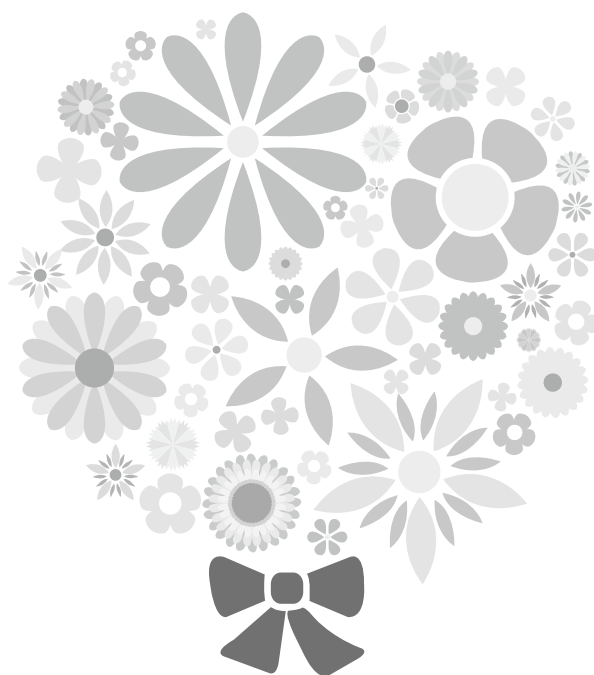
Dr. Yoon is a professor of the Department of Health, Behavior, and Society, and the director of the Center for Communications Programs at the Johns Hopkins University. He has been working in the field of reproductive health for over 20 years, with a focus on adolescent reproductive health and HIV prevention. He has led several large-scale research and programmatic efforts, including the Adolescent Reproductive Health Program in Bangladesh and the Adolescent Reproductive Health Program in India. He is also a frequent speaker at international conferences and has published numerous articles in the field of reproductive health.

中学生の皆さんが、自身の体験や学びの中で気づいたテーマについて、我が事ととらえて深く考え、若者らしい新鮮な視点で自分や社会はどうあるべきかをまとめ、そして行動に移そうとする姿勢が見て取れ、疑問や悩みに真剣に向き合う姿に頼もしさを感じました。

— 33 —

審査委員の皆さま

審査委員長	垣本 美和	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 理事
審査委員	間野 丈夫	三重テレビ放送株式会社 常務取締役
	倉本 勝也	熊野市教育委員会 教育長
	西 章	紀宝町教育委員会 教育長
	矢田 哲也	三重県小中学校長会 幹事（紀宝町立相野谷中学校 校長）
	木原 剛弘	三重県PTA連合会 会長
	高木 達成	三重県私学協会（暁中学校・高等学校 校長）
	本田 実	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	高山 功太	三重県子ども・福祉部 次長



大会概要

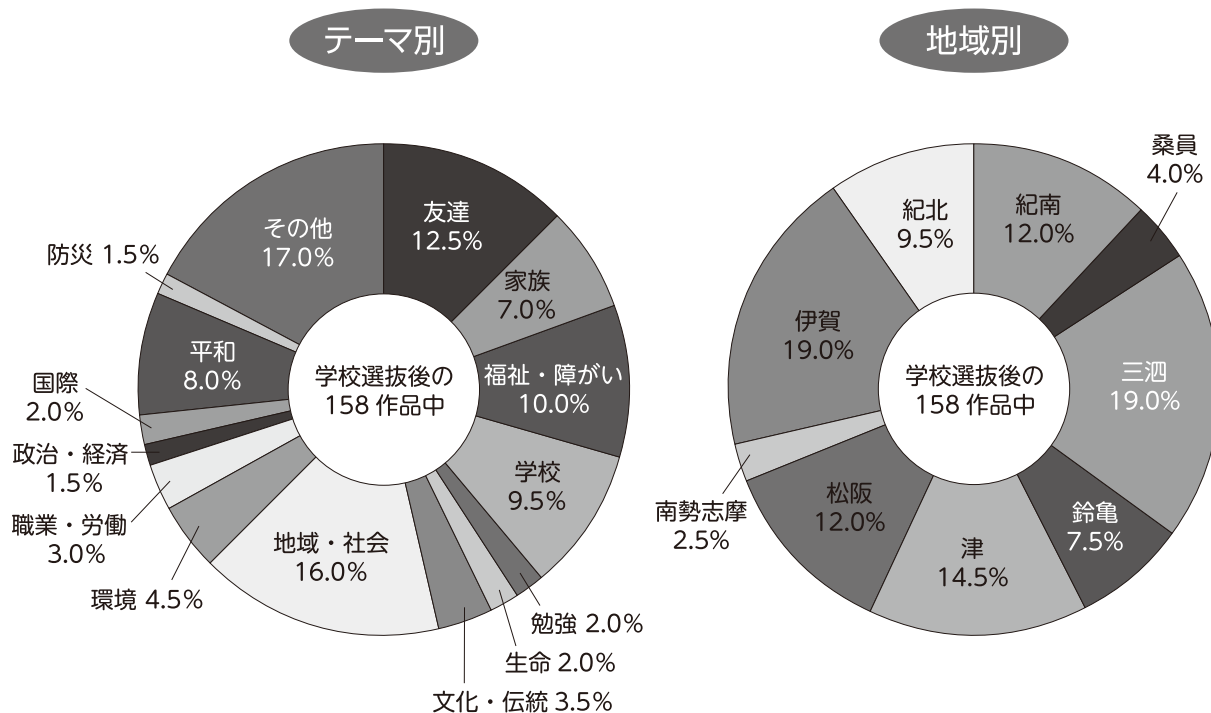
1 応募の状況

(1) 応募者数

地区名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
北勢	5,811	3,923	2,648	1,604	2,762	2,420
津	938	964	1,289	256	786	1,109
松阪	518	671	1,885	569	718	1,164
南勢志摩	123	101	86	75	61	238
伊賀	3,952	3,749	3,678	3,790	3,369	3,526
紀北	247	217	258	242	247	298
紀南	493	149	337	324	248	460
計	12,082	9,774	10,181	6,860	8,191	9,215

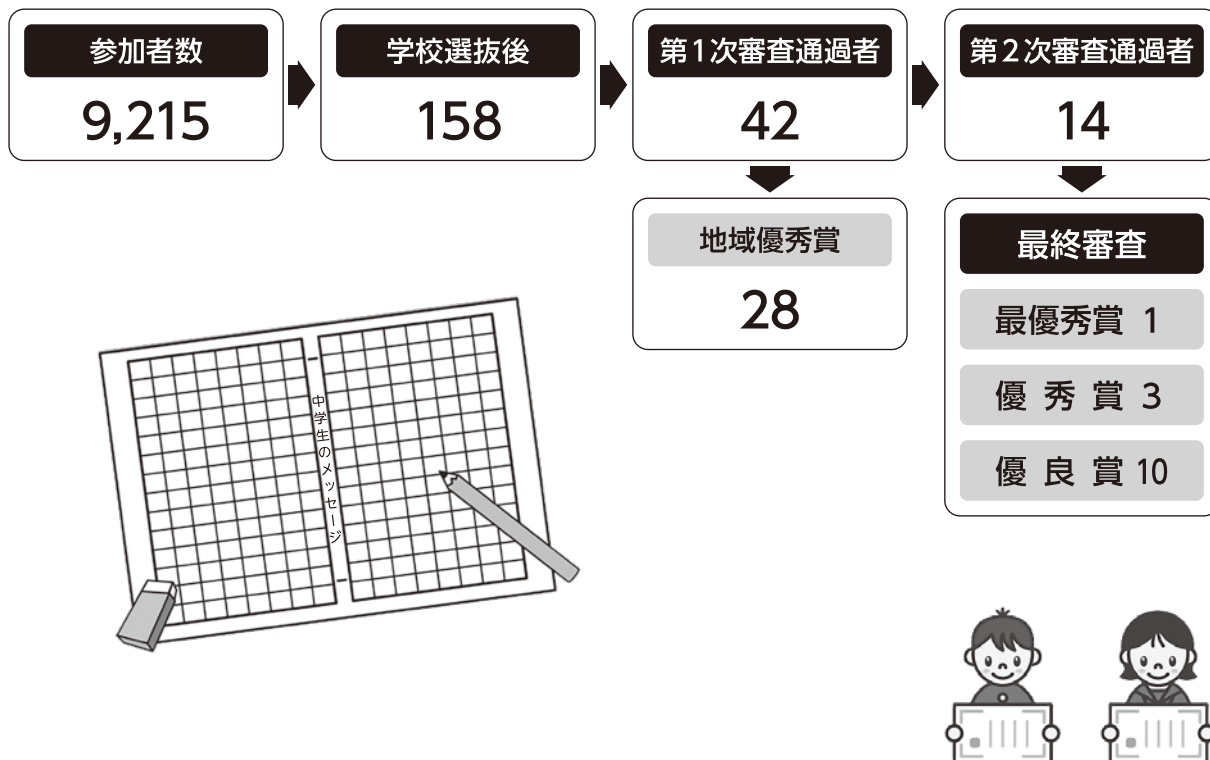
応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数9,215の内、学校における選抜を受けて当財団に提出された158作品の内訳です。

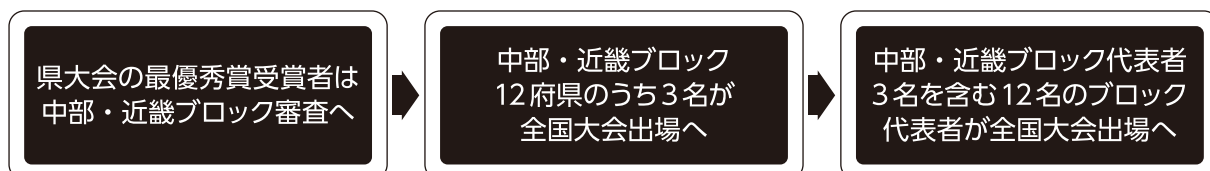


(2) 選考の過程

1. 県大会



2. 全国大会



2 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
1	桑名市立陽和中学校	3	矢神 歩夢	分かり合えると信じて
2	木曽岬町立木曽岬中学校	2	川端 紗世	わかりにくい危険
3	木曽岬町立木曽岬中学校	3	村田 真衣紗	当たり前の大切さ
4	四日市市立橋北中学校	3	黒野 詩恩	「私は左利き」
5	四日市市立塩浜中学校	2	坂下 タオ	「ごめんね。」じゃなく「ありがとう。」
6	四日市市立富洲原中学校	3	松岡 愛季	「伝える」ことの大切さ
7	四日市市立西笹川中学校	3	上戸 心陽	「みんなこ」
8	四日市市立三重平中学校	3	米倉 有那	どんな命も大切に
9	鈴鹿市立大木中学校	2	牧添 愛々	この思いを未来へ
10	鈴鹿市立白子中学校	3	西坂 花帆	「本を読むということ」
11	鈴鹿中等教育学校	1	犬持 ひなの	「支え合い」
12	津市立西郊中学校	3	山内 菜緒	身近な存在
13	津市立美杉中学校	3	樋口 このは	「心掛けていること」について
14	セントヨゼフ女子学園中学校	3	天野 奈々美	私の育った町と家族



No.	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
15	セントヨゼフ女子学園中学校	3	金井 涼香	「私たちの手で、私たちの海を綺麗に」
16	セントヨゼフ女子学園中学校	3	永井 杏奈	「女性の輝けるステージへ」
17	多気町松阪市学校組合立 多気中学校	2	松岡 咲良	知って守る、私たちの地域
18	明和町立明和中学校	2	中村 友寧	やさしい嘘
19	皇學館中学校	3	迫本 菜那	「これが俺」
20	伊賀市立大山田中学校	3	山極 莉亜	修学旅行を機に考えた平和
21	名張市立赤目中学校	1	河野 早希	同じ時代に生きる私たち
22	名張市立桔梗が丘中学校	3	森本 芽依	私たちの地球と未来を守る
23	名張市立南中学校	3	野元 笑美里	高齢者の幸せ
24	尾鷲市立尾鷲中学校	3	世古 紗弓	「英語の力」
25	尾鷲市立輪内中学校	3	下地 もも	昔から受け継がれてきたもの
26	紀北町立紀北中学校	3	濱中 理玖	今、必要なこと
27	熊野市立新鹿中学校	2	十文字 蒼	映画字幕について考えたこと
28	熊野市立有馬中学校	3	大威 璃々	みんな同じ生き物



3 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学 校 名	No.	学 校 名
1	四日市市立中部中学校	21	伊賀市立上野南中学校
2	四日市市立橋北中学校	22	伊賀市立霊峰中学校
3	四日市市立塩浜中学校	23	伊賀市立島ヶ原中学校
4	四日市市立富洲原中学校	24	伊賀市立阿山中学校
5	四日市市立西笹川中学校	25	伊賀市立大山田中学校
6	四日市市立三重平中学校	26	伊賀市立青山中学校
7	四日市市立西朝明中学校	27	名張市立名張中学校
8	鈴鹿中等教育学校	28	名張市立赤目中学校
9	津市立橋南中学校	29	名張市立桔梗が丘中学校
10	津市立西郊中学校	30	名張市立南中学校
11	津市立香海中学校	31	尾鷲市立尾鷲中学校
12	津市立美杉中学校	32	尾鷲市立輪内中学校
13	松阪市立殿町中学校	33	紀北町立赤羽中学校
14	多気町立勢和中学校	34	紀北町立三船中学校
15	多気町松阪市学校組合立多気中学校	35	熊野市立新鹿中学校
16	伊勢市立二見中学校	36	熊野市立有馬中学校
17	皇學館中学校	37	熊野市立入鹿中学校
18	伊賀市立崇広中学校	38	御浜町立御浜中学校
19	伊賀市立緑ヶ丘中学校	39	紀宝町立矢渕中学校
20	伊賀市立城東中学校		

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の 50%以上）が受賞されました。

4 デザイン画受賞者一覧

賞	学 校 名	学年	名 前	タ イ ト ル
最優秀賞	紀宝町立矢渕中学校	2	平田 夏妃	光をめざして
優 秀 賞	熊野市立木本中学校	3	喜田 心美	夢に向かって
優 秀 賞	熊野市立入鹿中学校	2	芝 結衣	翼をください
優 秀 賞	紀宝町立矢渕中学校	3	小鷲 瑠愛	あふれ出す「大好き」



デザイン画審査会で入賞作品を選出



デザイン画最優秀賞決定！

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事、三重県議会議員、御浜町長、協賛企業・団体様から
あたたかい応援メッセージをいただきました。

次の世代を担う君たちを
応援します！

三重県知事 一見 勝之

努力は裏切らない
諦めなければ夢は必ず叶う

三重県議会議員 稲垣 昭義

一人ひとりの Well-being を
実現するために、
“主権者”としての意識を持って
社会に参画していこう！

御浜町長 大畑 寛

気持ちを楽に、
全力を出し切ってください。

株式会社 アーステックTAGAWA
代表取締役 田川 永都

一球入魂！！

株式会社 アカサカスポーツ
代表取締役 赤坂 俊一

夢叶うまで挑戦

伊賀ふるさと農業協同組合

成功するまであきらめない

イセト 株式会社
代表取締役社長 伊藤 拓真

みなさんの実りある
未来を応援します

伊勢農業協同組合

苦しい時もまずは笑ってみよう！
君の未来は笑顔で待っている！！

イノキ防災
代表 居軒 正博

どの道も
熟慮したなら 君の道

有限会社 岡井博進堂
代表取締役 岡井 良樹

花よりも
花を咲かせる土となれ

岡三証券 株式会社
津支店長 稲垣 有治

君たちの未来は
無限の可能性に満ちている
自らの力を信じて、
力強く羽ばたけ！

紙小津産業 株式会社

言葉でつながる
未来への架け橋

紀宝町商工会
会長 田尾 友児

可能性は無限大！！
なんでも挑戦しよう！！

紀北信用金庫

挑め
失敗しても起き上がり
また、挑め

株式会社 ぎゅーとら
代表取締役社長 清水 秀隆

Also
challenge
everything !

グッディ(株式会社 玉城)
代表取締役社長 早川 賢

未来へはばたけ！

一般財団法人 熊野市ふるさと振興公社

君たちの輝く未来を
地元企業等の皆さんは
応援しています

熊野商工会議所
会頭 榎本 義秀

デジタルメディアの時代に必要と
深遠な知識をもつことで視野が広がり、
見分ける力が備わります

熊野ライオンズクラブ
会長 後呂 丈太郎

e n j o y !

熊野ロータリークラブ
会長 大崎 順敬

あなたの夢を大切に
自分を信じて一歩ずつ

桑名三重信用金庫

「できない理由」より
「できる方法」を考えよう！

コスモスベリーズ 松阪店

夢を持とう！
あなたの夢をサポートします！

株式会社 三十三銀行

自分を超えろ、限界を

JAバンク三重

明日ありと 思う心の仇桜
夜半に嵐の 吹かぬものかは

事務機 ナガサカ
永阪 高志

Let's cherish
this moment now

Seko food
CEO Morinobu Seko

何事もチャレンジ！

株式会社 ぜにや
代表取締役社長 早川 賢

育てたい夢
応援します！！

多気郡農業協同組合
代表理事組合長 西井 正

この体験を生かし
すばらしい人生を築こう！

田端創建 株式会社
代表取締役 田端 総充

友よ羽ばたけ
大地をしっかりと踏み締めて
夢を持ち、希望を持ち
命を大切に、人を大切に！

竹輝銅庵 JSJT.CO.,LTD.
代表取締役 竹本 博志

少しずつ前進！
応援しています。

株式会社 司
代表取締役 松村 亜矢子

一步踏み出す勇氣！
広がる未来！

デュプロ販売 株式会社
三重営業所長 田村 哲也

一人ひとりの努力！
ろうきんは応援します！！

東海労働金庫

明日のために今日
自分を信じて進め

東邦液化ガス 株式会社

好きなことを
全力で！

有限会社 トータルインテリアグチ
代表取締役社長 田口 秀明

輝かしい未来へ！

有限会社 南紀新報社
代表取締役 前川 佳史

失敗を恐れない
何事もチャレンジ！！

日本土木工業 株式会社
代表取締役 中野 周一

変化を読み、
あなたの未来を共に創る。

野村證券 株式会社 津支店
支店長 高柳 寛人

他人の決めた枠にこだわるな。
枠の外にはみ出してもいい！

パイロットインキ 株式会社
津工場長 服部 哲也

同じ未来と一緒に
見つめていきましょう！

株式会社 百五銀行

夢を見るから
人生は輝く！！

有限会社 プラスサポート

早く行きたければ一人で、
遠くに行きたければ
みんなで行こう！

保険企画サポート24

Do your best !!

株式会社 松阪電子計算センター
代表取締役 瀬野 喜久

今を生きる

丸安青果
代表 奥田 勝計

未来へ咲かせよう、
笑顔の花を！

公益社団法人 三重県医師会

何にでも チャレンジ！
未来が開く その言葉

特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人 三重県薬剤師会

一人ひとりの色で
未来を作ろう！

三重交通 株式会社

楽しめ青春！！

三重コニックス 株式会社
代表取締役 吉田 治伸

夢に向かって
はばたけ！！

株式会社 三角田工業
代表取締役会長 三角田 慎二

前へ前へ！進む勇氣が
あなたを強くする

南建設 有限会社
代表取締役 南 国広

今を大切に
未来へ羽ばたけ！

有限会社 御浜柑橘

人事を尽くして
天命を待て！

有限会社 山室石油
代表取締役社長 山本 清

まずは笑う！
笑顔キープ

吉野熊野新聞社 有限会社
代表取締役 谷川 隆富

どんな事にもチャレンジして
失敗しても諦めず頑張ってください。

株式会社 River Top
代表取締役 河上 弘子

明るく 元気に
前向きに

株式会社 リンクフジカワ
代表取締役 藤川 立也

敬称略、五十音順



協賛企業・団体紹介

株式会社アーステック TAGAWA

アカサカ・スポーツ

JAいがふるさと



JA伊勢

イノキ防災

OKAI (有)岡井博進堂

岡三証券
OKASAN SECURITIES

紙小津産業株式会社

紀宝町商工会

紀北信用金庫

ふれあい・たいせつに
きゅーとら

一般財団法人
熊野市ふるさと振興公社

熊野商工会議所

熊野ライオンズクラブ

Rotary
熊野

桑名三重信用金庫

グッディ
GOODAY

Berry's
コスモスベリーズ

三十三銀行

JAバンク三重

事務機ナガサカ

DreamOcean

食材工房 zeniya

育てたい夢、応援します
JA多気郡

田端創建株式会社

情報システムJT株式会社

株式会社 司
TSUKASA

Duplo
from print to documents

健全・安心・貢献
東海ろうさん

東邦液化ガス株式会社

有限会社トータルインテリアタグチ

株式会社ナカムラ

有限会社南紀新報社

NOMURA
野村證券

 日本土木工業

 **PILOT**

丸安青果

 **百五銀行**
FRONTIER BANKING

 有限会社
プラスサポート

北越コーポレーション株式会社
紀州工場

 **SUPPORT**
保険企画サポート24

 株式会社 松阪電子計算センター

(公社) 三重県医師会

 公益社団法人
三重県歯科医師会

 特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

 (一社) 三重県薬剤師会

 **三重交通**

 **コニックス株式会社**

株式会社三角田工業

南建設有限会社

こだわりみかんの
 **御浜柑橘**

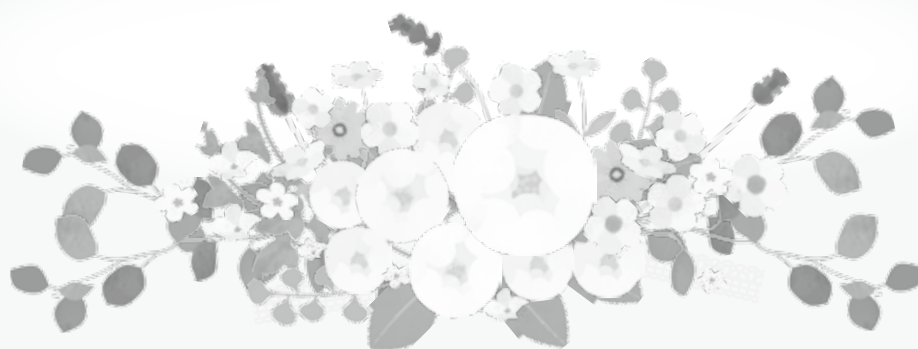
(有) 山室石油

吉野熊野新聞社有限会社

株式会社 **River Top**

株式会社リンクフジカワ

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。



中学生のメッセージ2024（第46回少年の主張三重県大会）作文募集要項

1 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として作文を募集します。

2 「中学生のメッセージ2024」開催期日・場所

期 日 令和6年8月31日（土）

場 所 御浜町中央公民館 大ホール 南牟婁郡御浜町阿田和4926-1

3 共 催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・紀南地区中学生のメッセージ実行委員会
三重県・三重県青少年育成市町民会議連合会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

4 協 力

三重県内青少年育成市町民会議

5 後 援

三重県教育委員会・熊野市教育委員会・御浜町教育委員会・紀宝町教育委員会
三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県PTA 連合会・三重県教職員組合
NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

6 応募について

(1) 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、令和5年度在籍の3年生は応募できません。

(2) 応募内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

(3) 応募方法

- ① 1人1点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

② 原稿用紙の記入方法は以下のとおりです。

ア. A4版400字詰め原稿用紙〔別添（様式）〕3枚半以上4枚半以下で縦書きに清書してください。A4以外の原稿用紙や枚数不足、枚数超過については、審査対象外となります。

※大会での発表時間は4分半～5分半となります。

イ. 1行目に作文のタイトル、2行目に県名・学校名・学年、3行目に名前、4行目以降に本文を書いてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。

ウ. 本人直筆による原本（パソコン入力不可・コピー不可・但し障がい等による場合は可）（以下同じ）を提出してください。

エ. 原稿用紙にはHB以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため判読不明な場合は審査できませんので、濃さについては厳守してください。）

オ. 原稿は、ホチキス止めをせずクリップ等で止めてください。

※枚数厳守でお願いします 4枚半以下 ～ 3枚半以上	1行目 タイトル 2行目 三重県 ○○立○○中学校 ○年 3行目 名 前 4行目 本文 ～
--	---

③ 応募作品一覧（別紙1）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ1つを下記より選び記入してください。

基調テーマ分類

「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」、「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」、「防災」、その他（ ）

④ 各学校等において3点以内に選考し、応募作品一覧（別紙1）を添付のうえ、下記提出先に原本を提出してください。

(4) 提出先・提出期限

- ・各中学校等は、令和6年6月7日（金）までに当該地域の市町民会議等に原本を提出してください。市町民会議等は作品を取りまとめ、6月12日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）に原本を提出してください。
- ・市町民会議等の連絡先については、別紙2を参照してください。

(5) 審査基準

・論旨は以下のとおりです。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(6) 入賞の選考

① 第1次審査会

第1次審査は育成財団にて行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

② 第2次審査会

第2次審査は学識経験者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する第2次審査会において行い、最終審査会で発表する14人を選考します。14人へは7月上旬頃に連絡します。決定後、やむをえず出場できなくなった場合は、次点の方を繰り上げる場合があります。なお、14人以外の作品には地域優秀賞とします。

7 中学生のメッセージ2024について

(1) 発表

・第2次審査会で選ばれた14人は「中学生のメッセージ2024」において、発表します。なお、発表では、パフォーマンス(写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等)を取り入れてもかまいません。その場合は、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

・大会当日、学識経験者、教育関係者、報道関係者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する最終審査会で審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準

・論旨は第1次審査会と第2次審査会と同じです。
・論調・態度は以下のとおりです。

- ① 共感と感銘を与えていたか。
- ② 説得力のある話だったか。
- ③ 熱意と迫力があったか。
- ④ 落ち着いて話していたか。
- ⑤ 聴衆に感動を与えていたか。

(4) 表彰

- ① 「最優秀賞」(1人)、「優秀賞」(3人)、「優良賞」(10人)を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- ② 「地域優秀賞」には、賞状と副賞を贈呈します。
- ③ 積極的に応募に取り組んでいただいた学校(全校生徒の50%以上とする)に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ④ 作品応募者全員に参加賞を贈呈します。

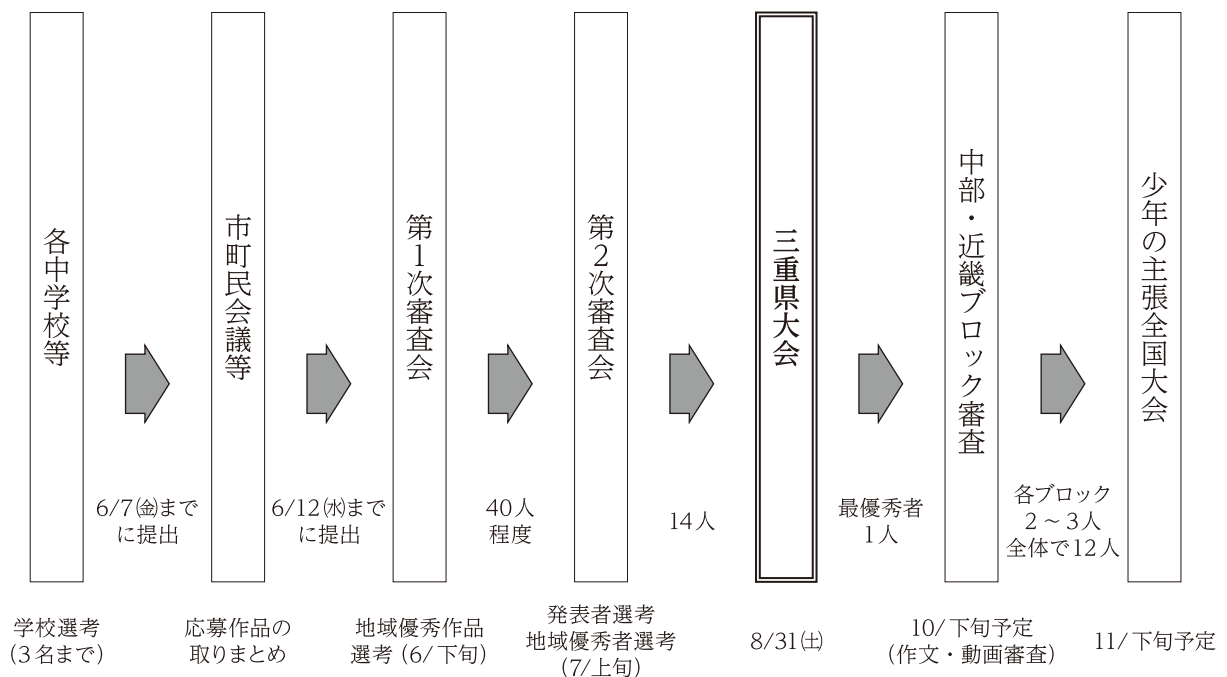
8 「少年の主張全国大会」への推薦

独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として最優秀者を推薦します。中部・近畿ブロック審査（作文・音声審査）でブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、11月下旬に東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表します。

9 その他

- (1) 応募作品（原本）の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 大会開催前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。また、大会後、結果を発表します。最優秀賞については、作品を掲載します。
- (3) 令和7年1月頃発表報告集を作成します。その中で掲載した作品及び写真については、ホームページ、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

10 参考：応募から発表までの流れ



問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL：0598-23-7735 FAX：0598-23-7792
E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

「一隅を照らす」

宮城県 栗原市立栗原南中学校 3年

ケイバージーバ

「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで三十五年もの間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学四年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようになりたい……。」

「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、四年生からは、日本で生活しています。

六年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつも応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができていることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥ話、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

人間は一人では生きていけません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で(يو كونج روبانه كړئ)。まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。



中学生のメッセージ2024
(第46回少年の主張三重県大会)

発表報告集
令和7年1月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL 0598-23-7735
FAX 0598-23-7792
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2024 デザイン画入賞作品介绍

地元紀南地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、御浜町中央公民館でデザイン画作品展を開催しました。



デザイン画優秀賞：夢に向かって
熊野市立木本中学校 3年 喜田 心美さん



御浜町中央公民館 2階ロビー 展示の様子



デザイン画優秀賞：翼をください
熊野市立入鹿中学校 2年 芝 結衣さん



デザイン画優秀賞：あふれ出す「大好き」
紀宝町立矢淵中学校 3年 小鷲 瑠愛さん